

鳥取県内で発生した 近年の主な災害

平成29年豪雪

1月～2月にかけて2度にわたる記録的な豪雪となり、死者3名を含む人的被害、家屋被害等が発生。多くの交通障害や、流通への影響が生じた。



2016
H28.10.21

2017
H29.1～2

鳥取県中部地震

鳥取県中部の三郷町を震源とする地震で、最大震度6弱を観測。多数の住家被害等が発生した。



※この地震をきっかけに「災害ケースマネジメント」を制度化

令和5年豪雪

強い冬の気圧配置となり大雪が発生。立ち往生等の交通障害や、非住家の倒壊、道路の通行止め、鉄道やバスの運休、停電などの被害が発生したほか、倒木等による孤立集落が複数発生した。



2018
H30.7.3～8

平成30年豪雨

西日本を中心に、広域に被害をもたらした。鳥取県でも初めて最大雨特別警報が発令され、建物浸水や農林・公共土木施設の被害が多数発生した。



2023
R5.1.28～31

鳥根県東部を震源とする地震

県内で最大震度5強を観測。住家被害や道路への落石、農地の液状化、断水等が生じた。



R5.8.14～18

令和5年台風第7号

台風の接近により記録的大雨となり、河川沿岸の崩壊や土砂流出による道路の寸断等が多数発生した。



2026
R8.1.6

平成29年豪雪 (2017)

鳥取県中部地震から3か月後の平成29年(2017年)1月、さらに2月に鳥取県は記録的な大雪となりました。2度の豪雪で死者3名を含む人的被害、家屋被害等が発生。また、スタック車両等を原因とする長時間にわたる立ち往生車両が発生しました。このような中で、沿線住民が公営施設で避難所を開設したり、ドライバーへのトイレ提供、また温かい食事を配るなどの支援がられました。



1月23～24日(智頭町)

最大積雪量:111cm(1月最大)

積雪量 70cm/日は観測史上最大

2月9日～12日(鳥取市)

最大積雪量:91cm

90cm超は33年ぶり

■ 国道373号周辺の車両滞留(1月23日～25日:智頭町)



1月23日 17:04



23日 18:04

鳥取自動車道の通行止めに伴い、う返車が一般道(町内の生活道路)に流入。短期間の異常な降雪の中、大型車のすれ違いができず、除雪車も現場に入れない状況が続き、長時間の立ち往生が発生しました。

平成30年豪雨 (2018)

台風7号や活断層前線の影響により、西日本を中心に全国的に広範囲での記録的な大雨となりました。岡山県倉敷市真備町の洪水害をはじめ、全国各地で甚大な被害が発生しました。県内19市町村中10市町村に本県では初となる大雨特別警報が発令され、多数の建物浸水被害(※)や農林・公共土木施設に被害が発生しました。また、JR因美線、JR伯耆線は長期運休し、全線が再開するまで長期にわたって県民生活や観光産業などに大きな影響が出ました。

(※)一部倒壊3棟、床上浸水7棟、床下浸水54棟

■ 国道373号(智頭町内)では県内全線で護岸崩落等が発生



千代川・国道373号(智頭町)

■ 土砂流入、法面崩壊により、林道等への被害は過去最大の被害額に

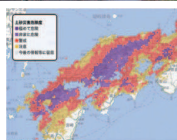


林道鳥取中央線(鳥取市)

■ 河川から木や葦が大量に流出し、大規模な泊地閉塞や海岸漂着が発生



鳥取港西浜地区(鳥取市賀露町)



○7月3日からの大雨で、県内の多くの地点で300ミリを超える雨量を観測
智頭 508.5ミリ 佐治 483.0ミリ 若板 447.0ミリ
※7月3日からの6日間で、平年の7月～10月の2倍を超える降水量
○智頭(7月5日:194.0ミリ)、若板(7月6日:166.5ミリ)、
佐治(7月6日:171.0ミリ)では7月としての日降水量としての歴代1位を更新

令和5年豪雪 (2023)

令和5年1月28日を中心に雪が降り31日にかけて大雪になりました。最深積雪は、28日に智頭で86センチ、29日に米子で44センチ、鳥取市吉方で38センチ、30日に大山町大山で209センチを観測し、孤立集落の発生、非住家の倒壊、道路の通行止め、鉄道やバスの運休、停電などの被害が発生しました。

倒木による通行止め解消・孤立集落解消に向けて、道路管理者、中国電力、NTTが連携して作業を行いました。

■ 倒木等による通行止めにより孤立集落が発生



主要地方道智頭用瀬線(智頭町智頭)

市町村	地域名	対象世帯・人数
鳥取市	佐治町	358世帯 798人
鳥取市	青谷町 八雲寺	33世帯 75人
鳥取市	用瀬町 赤波	1世帯 3人
智頭町	市瀬 (板井原)	1世帯 2人
智頭町	倉谷	4世帯 7人
八頭町	茂谷	1世帯 2人

■ 孤立集落解消に向けて、道路管理者、中国電力、NTTが連携して作業



国道482号(鳥取市佐治町加瀬木)



<Before>

<After>

大雪や台風時の倒木に起因する停電・通信障害や孤立集落発生を未然防止をためていくため、R6年度から、森林内等における倒木被害の恐れがある樹木の事前伐採を推進しています。(防災・減災のための事前伐採・倒木緊急除去推進事業)



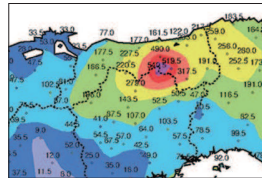
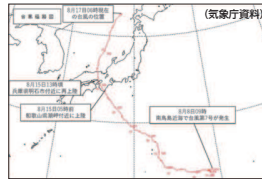
令和5年台風第7号 (2023)

台風第7号は、令和5年8月8日に南鳥取県で発生し、強い勢力を保ったまま北西へ進み、近畿地方を縦断しました。時速15kmでゆっくり北上し、周辺に盛った空気が流れ込んだため、鳥取県では局地的に雷を伴った猛烈な雨となりました。

県内では、鳥取市佐治で、観測史上1位となる1時間降水量97.5ミリ(04時52分)、3時間降水量163.5ミリ(06時20分)を観測しました。また、総降水量が発表され、07時50分に顕著な大雨に関する鳥取県気象情報が発せられました。日降水量が鳥取市佐治、鳥取市吉方、鳥取市鹿野、智頭で観測史上1位を更新する大雨となり、15日16時40分鳥取市に大雨特別警報が発せられました。

この記録的大雨により、県東部・中部の山間部を中心に、河川沿岸の崩壊や山からの土砂流出による道路の寸断、農地への土砂流入など、激甚災害にも指定される甚大な被害を受けました。

県では、台風接近を前に、非常に厳しい状況も予測されたとし、早期の避難(命を守る行動)を呼びかけるとともに、佐治川ダムの緊急放水を昭和47年の運用開始以来初めて実施しました(住民避難の徹底など万策を尽くした上で実施)。



■ 降り始め(14日12時)から18日7時までの降水量(アメダス速報値)

鳥取市佐治	537.5ミリ(参考) 15日0時~24時までの解析雨量約700ミリ
鳥取市鹿野	506.0ミリ
智頭	323.5ミリ
鳥取市吉方	238.0ミリ
倉吉市関金	229.0ミリ



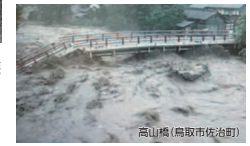
令和5年台風第7号 (2023) 被害の状況

過去最大の風水害 昭和62年台風第19号に次ぐ農林・土木被害額(316億円)

<被害の概況>

【人的被害】なし
 【住家被害】全壊1棟、半壊2棟、床上浸水11棟、床下浸水73棟
 【公共土木施設】被害額205億円 ※市町村管理施設含む 河川1311件、砂防73件、道路106件、港湾4件
 【農林施設関連】被害額110億円
 水田法面崩壊、農道の崩壊、水路破壊・閉塞、橋梁の流出等、林道及び林業専用道等の路肩崩壊等

■ 国道482号(鳥取市用瀬町~鳥取市佐治町)など複数路線で道路崩落が発生



■ 河川の急流により、人家前面の河川護岸が崩壊



■ 佐治川ダム上流域の土砂崩落により、

ダムの貯水地内外に土砂等約10万m³が異常堆積



台風7号の災害経験を踏まえ、災害に強いまちづくりの取組のため、地域の関係団体の賛同のもと「災害に強い佐治町(町)事業実行委員会」を設立→支援マップ作成など地域の防災対策を推進

令和8年島根県東部を震源とする地震 (2026)

令和8年1月6日午前10時18分、島根県東部を震源とする地震(マグニチュード6.4)が発生しました。この地震では県内で最大震度5強を観測、鳥取県西部では長周期地震動階級4が観測されました。

軽症者が4名、住家被害も多数発生したほか、道路への落石、農地の液状化等の被害も発生。このうち、境港市の農業用施設被害等については、激甚災害に指定されました。

また、南部町や大山町では、飲料制限や断水が発生し、県内外の給水車による給水支援やペットボトル飲料水の配布が行われました。

発生日時	令和8年1月6日 10時18分
震央地名	島根県東部
地震の規模	マグニチュードM6.4 (震源の深さ11km)
震度4以上を観測した市町村	震度5強 境港市、日野町、江府町 震度5弱 米子市、日吉津村、南部町、伯耆町、日南町 震度4 倉吉市、湯梨浜町、北栄町、大山町



■ 町道溝口字代線 落石(伯耆町)



■ 町道上細見3号線 石垣崩落(伯耆町)

